様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成 22 年 9 月 30 日現在

機関番号：１２１０２
研究種目：若手研究（B）
研究期間：2008～2010
課題番号：20700633

研究課題名（和文）

小・中学校の歴史学習におけるハイパーメディア教材利用の有効性の検討

研究課題名（英文）

A Study on the Possibility of History Hypermedia Teaching Software in School

研究代表者
李　禧承（LEE　HEESEUNG）
筑波大学・大学院人間総合科学研究科・準研究員
研究者番号：50463823

研究成果の概要（和文）：本研究は学校教育におけるメディア活用の定着化の基礎研究として、ハイパーメディア教材の有効性を明らかにすることをその目的とした。そして、①「どの教科」において②「どの学習目的」のために③「どの授業実践」においてハイパーメディア教材が適するかを検討した。その結果、(1)学校の歴史学習に不可欠な「論争性」の理解には「グローバル議論モデル」の構成が重要であり、(2)「グローバル議論モデル」が求められる具体的な歴史課題を提案し、(3)「グローバル議論モデル」の構成を支援する歴史ハイパーメディア教材のデザインモデルを提案することができた。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to suggest the possibility of hypermedia in primary and secondary schools, focusing on the three aspects; (a)subject, (b)learning goal, (3) leaning contents. In results, I have three suggestions:(1) hypermedia work for students to construct the Argument Model in history classes,(2) students have to acquire the Global Argument Model for understanding controversies of history topics, (3) I propose it a design model for designing the history hypermedia systems.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2008 年度	900,000	270,000	1,170,000
2009 年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2010 年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総　計	2,600,000	780,000	3,380,000

研究分野：総合領域
科研費の分科・細目：科学教育・教育工学
キーワード：メディア活用

１．研究開始当初の背景

今日まで学校教育を対象としたコンピュータ利用の重点は、学習活動における生徒の興味・関心に置かれ、実際にそのコンピュータ利用が生徒の学習活動にどのようなメリットをもたらしたかということについては、明確な回答が用意されていない（W. H. Hannum, 2007）。本研究で取り上げるインタ

ーネットの基本原理とされるハイパーメディア教材の教育利用に関する従来の議論においても、その技術的特性による漠然とした利用効果への期待が述べられてきたものの、その教材が学校教育においてどの学年でどの教科においてどのような学習目的のためにより効果的であるかに関する理論的及び実証的な議論は行われてこなかった。そこで、筆者は、学校教育においてハイパーメディア教材がどの教科においてどのような学習のためにその利用が適するかを理論的および実証的に検討することが重要な課題であると考えた。また、今後学校教育においてICT活用の定着化を検討する際、本研究はその基礎的な研究としてその意義があると考えられる。

２．研究の目的

本研究の目的は、学校教育（小・中学校）の歴史学習におけるハイパーメディア教材の利用可能性を理論的及び実証的に明確にすることにある。

３．研究の方法

本研究では、次の４つの方法を設定した。(1)学校の歴史学習においても「難構造化知識領域」の内容が不可欠であることを理論的な検討を行い、歴史学習においてハイパーメディア教材の利用可能性を理論的に根拠づけし、(2)「難構造化知識領域」として具体的な歴史課題の学習のために、生徒側に求められる学習・指導方法について検討し、ハイパーメディア教材による学習・指導が適することを明確にし、(3)実際に「難構造性」の歴史的課題の学習に必要なハイパーメディア教材のデザインモデルを作成し、(4)そのデザインモデルに基づくモデル教材を作成し、ハイパーメディア教材の利用効果を調べる。

（研究方法（４）については、本研究では実施することができず、本研究の継続研究として進めることにする。）

４．研究成果

本研究の成果としては、以下の 3 つをあげられる。

(1)　ハイパーメディア教材利用が求められる具体的な歴史学習の場面を特定する理論的な検討を行い、歴史の教科特性ともいえる、同じストーリーに対して異なる見解が存在するかもしれない「論争性」の理解を支援するために、ハイパーメディア教材の利用可能性があることを理論的に根拠づけた。特に、Britt ら（1994；1996）の歴史テキストの「理解モデル」の援用と、学校教育における歴史学習の目標を「理解モデル」、特に「議論モデル」の構成の学習目標が適することを指摘することができた。【雑誌論文③】。

(2)「論争性」の理解を支援するために生徒が習得すべき理解モデルは「グローバル・レベル」の「議論モデル」であり、これはハイパーメディア教材のデザインモデルとしても適することを指摘した。これは、暗記科目として理解される傾向のある歴史学習指導の現状を打開するために、歴史の「論争性」の理解が最も重要な性質であることを理論的に根拠づけたことは重要な研究成果である。【学会発表①】

(3)「グローバル議論モデル」の構成要素として「①歴史事件に関する対立の見解」、「②各見解の根拠」、「③根拠間の関係性」の３つとし、「論争性」を有する具体的な歴史的課題として加藤公明（1991）の「植民地はどっちだ―大和政権と朝鮮」の授業実践の援用が適することを指摘した。また、加藤の授業実践を「グローバル議論モデル」の３つの構成要素に照らし合わせ、「②各見解の根拠」と「③根拠間の関係性」の構成内容が不十分であることを指摘するとともに、それらの内容を追加してハイパーメディア教材の内容構成（図１）を行い、ハイパーメディア・デザインモデルとして提案した。【雑誌論文①】

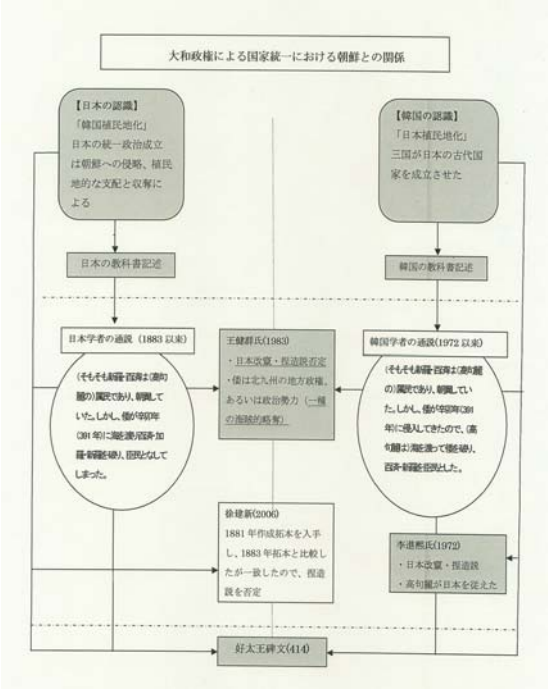

図１　「グローバル議論モデル」のためのハイパーメディア教材の内容構成

これは①学校の授業実践レベルにおいても、相異なる解釈が存在する「論争性」の学習が存在すること、②その学習のためには生徒側に必要な「グローバル議論モデル」の授業内容の構成を具体的に提示したことにその成果がある

(4) 本研究の付加的な研究成果として、日本と韓国の ICT 教育の現状を捉えることができた。ハイパーメディア教材のデザインモデルを構成するために、日本と韓国とでその解釈が相異なる歴史的課題を調べる中で両国の ICT 活用の現状をも検討した。そして、両国の教育における ICT 活用の課題と問題点を指摘することができた。特に、韓国の小・中学校のコンピュータ教科書分析では下記の【図２】の内容構成であることを確認できた。【雑誌論文④】

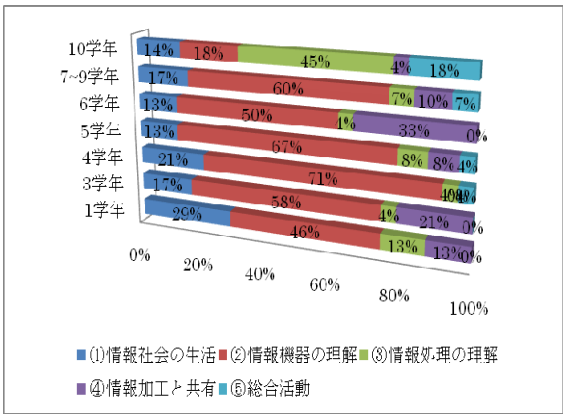

図２　韓国の小・中学校コンピュータ教科書の内容構成

また、両国において教員に求められる ICT 活用能力の違いが明らかになった。日本では教員が指導場面で具体的なイメージを持たせることに重点が置かれるのに対し、韓国では教員の職務全体における ICT 活用能力を向上させることにその重点があった。【学会発表②】

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計４件）

①李禧承、「論争性」の理解を支援する歴史コンピュータ教材の内容構成の試み―M. A. Brittらの「議論モデル」を手掛かりに―、教材学研究、査読有、2010、57-64

②李禧承、情報メディア活用と体験活動、教職研修、査読無、４月号、2010、54-57

③李禧承、初等・中等教育段階におけるハイパーメディア教材利用の理論モデルの構築、教育メディア研究、査読有、第 15 巻第２号、2009、51-64

④李禧承、韓国の学校教育におけるICT教育の現状―コンピュータ教科書の分析を通して―、教育方法学研究、査読有、第 16 集、2009、107-129

〔学会発表〕（計２件）

①李禧承、「論争性」の理解を促す歴史ハイパーメディア教材のデザインモデル―主体的な思考活動を支援する教材開発に向けて

一、日本教材学会、2009.10.17、日本大学

②李禧承、日本と韓国の教員のICT活用指導力に関する基準の比較、日本教育メディア学会、2008.10.19、愛知淑徳大学

〔図書〕（計 2 件）

①李禧承（根津朋実・吉江森男編著・分担執筆）、培風館、「教育内容・方法」第 17 章、2010、162-170

②李禧承（平山満義編著・分担執筆）、協同出版、「教育実践と情報メディア」第 5 章韓国の情報教育の現状(72-87)、第 8 章社会科・歴史と情報メディア(114-124)、2009

６．研究組織

(1)研究代表者

李　禧承（LEE HEESEUNG）
筑波大学・大学院人間総合科学研究科・準研究員
研究者番号：50463823